

★ 『安倍晋三 v s 財務省』

ダイレクト出版・パワーゲームメルマガ読者の皆さま
こんにちは！

北野幸伯です。

(@今回の内容は、本のPRが含まれます。)

私は、日本のバブル期を覚えている世代です。

当時は90%以上の方が、
「私は中産階級に属している」と
考えていました。

世界中の誰もが、「日本経済は最強」であることを疑わず、
お金がたっぷりある幸せな時代でした。

ところが、私がモスクワに留学した1990年にバブルが崩壊。

きっかけは、【大蔵省】が金融機関に出した
「不動産融資総量規制」という通達だったと言われています。

大蔵省は、一通の通達で、不動産バブルを潰したのです。

それにしても、その後
【 暗黒の30年 】になったのはなぜなのでしょう？

調べてみると、【 タイミングの悪い増税 】が
主な原因であることがわかりました。

たとえば。

バブルが崩壊した1990年、実質GDP成長率は、4.89%で
した。

91年は3.42%、92年0.85%、93年マイナス0.52%。

バブル崩壊の深刻な影響が見えます。

ところが、ここからの数字を見てください。

94年0.88%、95年2.63%、96年3.13%。

あれ???????

GDP成長率が徐々に伸び、明らかに復活していますよね？

「暗黒の10年」という感じではありません。

しかし、続きの数字を見てください。

97年0.98%、98年マイナス1.27%、99年マイナス0.33%。

嗚呼、やはり「暗黒の10年」になってしまいました。

94年、95年、96年といい感じだったのに、
何が起こったのでしょうか？

1997年、消費税率が3%から5%に引き上げられた。

これで、「暗黒の10年」が確定したのです。

その後、「暗黒の10年」は「暗黒の20年」になりました。

「暗黒の20年」は、「暗黒の30年」になるのでしょうか？

そうはさせまいと、返り咲いた安倍総理が
「アベノミクス」を開始。

2013年、「いよいよ暗黒時代から脱出か!？」と、
ものすごい期待感がありました。

この年のGDP成長率は、2.01%でした。

「これからもっと成長が加速していく!」と思われた。

ところが、2014年は0.3%に減速。

アベノミクスへの期待感は、しぼんでしまったのです。

なぜ減速したのでしょうか？

消費税率が5%から8%に引き上げられたから。

がっかりです。

それでも、安倍さんは
「破局を先延ばしにした」とは言えるでしょう。

というのも、いわゆる「3党合意」によると、
2015年、さらに消費税率を8%から10%に
引き上げる予定だったからです。

安倍さんは、消費税引き上げによって景気がひどいこと
になったのを見て、再引き上げを2019年まで延期しました。

2019年、消費税率引き上げ。

2020年、2021年、新型コロナパンデミック大不況。

2022年、2023年、ウクライナ戦争インフレ。

日本国民は、苦しみ、憤っています。

しかし、岸田さんは、しれ~と
【増税メニュー】の長いリストを出してくる。

- ・ 社会保険料値上げ
- ・ 退職金課税値上げ
- ・ 国民年金の納付期間を60歳から65歳に延長？
- ・ 消費税率を15%に？
- ・ 走行距離税導入検討
- ・ 防衛増税（法人税、所得税、たばこ税値上げ）
- ・ 森林環境税

国民の誰かが岸田さんのことを【増税メガネ】と呼び、
それが大流行した。

それで岸田さん、減税案を出しましたが、
内容がショボかったせいか
【減税ウソメガネ】と呼ばれてしまった。

調べてみて【暗黒の30年】の理由は、
「タイミング最悪の増税」であることがわかりました。

ですが、もう一つ重大な疑問が残ります。

なぜ日本政府は、
国民を苦しめる増税を繰り返すのでしょうか？

その答えが、今日ご紹介する本に書いてありました。

◆『安倍晋三 v s 財務省』

詳細は↓

<https://amzn.to/3GcsgKw>

筆者は、

産経新聞特別記者・編集委員兼論説委員
田村秀男（たむら・ひでお）先生、

元産経新聞政治部長
石橋文登（いしばし・ふみと）先生

です。

この本を読むと、

「なぜ日本経済は30年間成長しなかったのか？」

がよくわかります。

結論は、「度重なる増税のせい」で、ということなのですが。

なぜ日本政府は、永遠に増税を続けるのでしょうか？

皆さん、もうおわかりだと思いますが、

【 財務省がいつでも増税を望んでいるから 】です。

この本のすごいところは、
財務省の具体的に誰が増税を望み、
工作をしていたのか、いるのか、

実名がバンバン登場することです。

少し、ネタバレさせていただきます。

・橋本政権は1997年4月、
消費税率を3%から5%に引き上げました。

さらに同年11月、「財政構造改革法」を成立させて、
赤字国債を毎年度削減するなど財政再建路線をとりました。

その結果、

〈緊縮財政で世の中におカネが回らなくなって、
景気が落ち込んでいく。

深刻な就職氷河期とデフレの蔓延を招くことになります。

その影響で、橋本さんの知り合いだった中小企業の経営者が自殺しています。

晩年になって、自分のやった政策を、橋本さんはずいぶん後悔していたようです。

そういう政策を橋本さんにけしかけたのは財務（大蔵）省です。〉（64～65p）

・2013年アベノミクスは絶好調だった。

安倍さんは、アベノミクスに冷水をかけることになる消費税増税に反対だった。

しかし、財務省出身の黒田日銀総裁が、

「もし、予定通り消費税増税に踏み切らない場合、日本国債暴落という『テールリスク』に見舞われる恐れがある。万が一そうになったら、日銀としては打つ手がなくなる」

と安倍さんを脅しました。

それで安倍さんは渋々、消費税増税に踏み切った。
（87～88p）

ところが、黒田さんの言うことを聞いた結果、
日本経済はひどいことになった。

安倍さんは、2015年に予定されていた消費税率再引き上げの延期を決めます。

財務省は、銀行、財界、新聞、テレビを使い、「先送り反対工作」をしました。

この作戦を指揮したのが香川俊介財務次官だそうです。

香川さんは、森元首相に協力を依頼しました。

そして、森さんは安倍さんと会い、

「延期したらダメだ。
国債が暴落するしれないよ」

と説得しました。(78p)

森元首相を「つかいっぱ」させる財務次官。

恐るべき影響力です。

この時、安倍さんは自分の信念を貫いて、日本沈没を先延ばしすることに成功しました。

ちなみに、安倍さんは、元日銀副総裁の岩田規久男さんに「なぜ2014年度に消費税を増税したのか」と聞かれ、「財務省の力がすごかった」と答えました。

岩田さんは、私たち国民と同じ疑問を安倍さんにぶつけます。

「一国の宰相が財務省に勝てないんですか？」

すると安倍さんは、

「財務省は消費増税しなかったら、財政は破綻することを国会議員に徹底的に説得して回るのです。

そのため、ほとんどの議員が財務省の言うことを信じてしまっているんです」

と答えました。(77p)

ものすごい本です。

この本を読むと、

- ・日本が暗黒に30年になってしまった理由
- ・なぜ財務省は、いつでもどこでも増税を望むのか
- ・なぜ日本の総理大臣は、財務省の言いなりなのか
- ・具体的に誰が、総理大臣に「増税工作」をしかけているのか（実名入り）

などが超詳細にわかります。

本当に稀に見る名著だと思いました。

「日本、このままではダメだ！」と思われている方、是非ともこの本をご一読ください。

日本は30年間成長せず、いつの間にか「一人当たりGDPランキング」で、世界2位だったのが世界32位（！）まで落ちてしまいました。

なぜ????????????????

この本を読めば、はっきり詳細に、鮮明にわかります。

◆『安倍晋三 vs 財務省』

詳細は↓
<https://amzn.to/3GcsgKw>

北野絶対お勧めです。